

建築研究開発コンソーシアム 平成 29 年度通常理事会・通常総会

建築研究開発コンソーシアムでは、平成 29 年 6 月 15 日に学士会館にて平成 29 年度通常理事会・通常総会を開催致しました。同会合には多数の会員のご出席を得て、過半数をもって成立し全ての審議議案について承認されました。

以下に総会での村上会長の挨拶と国土交通省住宅局住宅生産課山下英和建築環境企画室長のご挨拶の要旨、懇親会での村上会長の挨拶と国土交通省住宅局由木文彦局長のご挨拶、並びに、緑川副会長、土田副会長代理の挨拶の要旨を記します。

挨拶要旨

建築研究開発コンソーシアム
村上 周三 会長



コンソーシアムのミッションである技術的課題に関して、熊本地震のような地震の新しい形、地球環境問題、ゲリラ豪雨等の自然災害の激化、少子・高齢化、ネットワーク社会等の新しい課題に対応すべく、私共は頑張っている。

コンソーシアムは平成 14 年に設立され、本年度は 16 年目を迎える。平成 25 年に西山運営委員長を中心に中期ビジョン-2013 を策定し、それにより活動が大変活性化している。例えば、正会員数は 10 年以上減少傾向が続いていたが昨年度から増加傾向へ転じて 2 増となり、今日現在は更に 2 増で 90 となっており皆様のご協力に感謝したい。このような活性化の要因として、魅力あるテーマの研究会活動と正会員限定の人材育成プログラム等の、中期ビジョン-2013 で策定された様々な活動が皆様の賛同を頂けていると思っている。

人材育成プログラムはコンソーシアムの特徴を生かして少人数でじっくり講義を受ける点が好評を得ている。私も特別講義を行っており、若い研究者と意見交換ができるのを楽しみにしている。コラボレーション・ミーティングは建築研究所がリード役となり、今までに構造、防火、環境等の分野でコンソーシアムらしい異業種連携の魅力的な研究会が立ち上がっている。

又、重要な活動である研究会は、今までに 134 件のテーマを立ち上げており、成果の一部はコンタクトポイント及び JIS 原案作成対応に結実している。なお、今年度は国土交通省からの要請を受け「建築基礎・地盤研究の推進」についても取り組み、研究会の準備を進めているので是非とも会員の皆様の参加をお願いしたい。

その他、若手技術者交流会、講演会・見学会を統合したコンソ・プラザ、及びアイデアコンペと会員の皆様と関心を共有し活動を展開している。又、一昨年度から表彰制度を整備し、コンソーシアム活動へ多大の貢献をされた方々に功労賞を授与している。

以上のように、コンソーシアムが大変順調に発展しているのも皆様方のご指導ご協力の賜物である。今後共、皆様のご支援をお願いしたい。

ご挨拶要旨

国土交通省住宅局 住宅生産課
建築環境企画室 山下 英和 室長



コンソーシアムは建築分野における研究開発の推進等を通じ、住宅・建築物の耐震化、火災対策、省エネ化といった様々な政策課題に対し、技術面から多大な貢献をさせていただいてきたことに感謝申し上げる。

住宅・建築行政においては、研究開発の成果の活用をはじめ、技術的な対応を必要とする課題が多く存在している。例えば、建築物の安全の確保は特に重要な課題の一つであり、既存の住宅・建築物の耐震性の向上の加速化、防災拠点となる建築物のより高い耐震性能の確保等に取り組んでいるところである。又、エネルギー問題、地球温暖化への対応も重要な課題であり、この 4 月から建築物省エネ法が全面施行となり、大規模建築物に対する省エネ基準の適合義務化を開始したところである。

昨今、建築基礎・地盤分野における研究者の減少が危惧されている状況の中で、この分野の研究の推進に向けて、コンソーシアムに是非ご協力をお願いしたいと考えている。こうした取り組みを通じて、建築基礎・地盤分野の中堅・若手研究者の方々に集まってもらうことを期待している。

又、研究開発の将来を担う若手研究者の人材育成にも注力されているが、人材育成は各会員企業のみならず、業界共通の重要課題であり、今後も、更に充実した取り組みを期待している。引き続き、コンソーシアムの研究成果が住宅・建築物の質の向上や関連施策の推進に寄与するよう、精力的な活動を期待している。

今後のコンソーシアムの益々の発展を祈念申し上げ、挨拶とさせていただきます。



挨拶要旨(懇親会)

建築研究開発コンソーシアム
村上 周三 会長

建築は、人類が持つ最も古い技術であるが、決して完成された技術ではない。建築を取り巻く社会状況がどんどん変わり、新たな地球環境問題、新たな地震、少子高齢化、空き家問題等もあり、また、建築に対する要求水準も高くなっており、私共は日々、技術開発を迫られている状況である。そのため、イノベーションが必要である。学際的・業際的なこの集まりは、日本の建築技術をさらに発展させる資産であると思っている。皆様よろしくご支援の程お願いしたい。

会員が増えた状況を調べると、意義のある研究会を企画すると、それに参加する形で異業種の方が参加している。今後とも私共は運営委員会を中心に、或いは建築研究所の皆様と一緒に、日本の建築技術のますますの成熟化・高度化を目指して頑張りたいと思っている。今後共、皆様のご支援をお願いしたい。

ご挨拶要旨

国土交通省 住宅局
由木 文彦 局長



会員数が着実に増加しているとのことで大変喜ばしいことだと思う。これも皆様の取り組みが着々と実を結んでいる結果であり、改めて敬意を表したい。住宅行政に関しても色々な面でご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

会長のお話にもあったように、建築を巡る課題がたくさんある。耐震の問題は、熊本で大震災が起きた。耐火の問題ではロンドンで火災が起きた。さらに省エネの問題は、建築物省エネ法がこの4月から施行された。まだまだ取り組まなければならない課題が非常に多く、引き続き皆様の力をお借りしながら進めてまいりたい。

本日は3点お願いを申し上げたい。1つは、色々な課題があるが、政府は働き方改革や生産性向上のプロジェクトに取り組んでいる。コンソーシアムでは、パワースーツやパワーローダーを使う研究、施工へのロボットの活用、3Dプリンターの活用などの研究にも着手していると聞いているので、そういった皆様の働き方・幸せに直結するような研究に是非引き続き積極的に取り組み頂き、建築関係者全体として生産性が上がり、また、働き方も良くなって、全体の幸福につながるような、そういう研究を是非お願いしたい。

2点目は、建築物の基礎や地盤について、私が住宅局長になってからも、横浜のマンションの問題があった。また熊本の地震で、益城町などでは川沿いの一見地盤が弱そうな場所の住宅は全然倒れていないが、少し裏になって離れた場所は軒並み倒れている。また、建築物の基礎や地盤の研究者の層が少し薄くなっているのではないかと危機意識を持っている。このコンソーシアムは産・学・官が一堂に会して色々な取り組みが出来る利点があると思っており、この分野で今後取り組むべきミッションのようなものを是非お考え頂き、中堅や若手研究者がそういう分野にも積極的に取り組んで頂けるよ

うな活動をお願い出来ないかということが2点目である。

3点目は、地盤等に限らず、建築分野の若手研究者・建築を担う若い層を是非お育て頂きたい。皆様方にも若手の人材育成プログラムを実施して頂いているが、研究者に限らず私共行政分野も含めて、今後の建築を担う人材についてやや私は危機感を持っている。是非、皆様方のお力を以って、若手の優秀な人材が建築を志し、また研究開発を志して頂けるような環境をお作り頂ければと思っている。

引き続き皆様方と共に私共も一生懸命頑張りたいと思いますので、ご協力ご支援をお願い申し上げます。

挨拶要旨

建築研究開発コンソーシアム
緑川 光正 副会長



4月から国立研究開発法人建築研究所の理事長を拝命し、コンソーシアムの副会長を勤めさせて頂くことになり、よろしくお願いいたします。

昨年まではコンソーシアムの運営委員会委員をしていたのでコンソーシアムの活動はある程度知っており、西山委員長からもご報告があったように、コンソーシアムは活発に活動しており、非常に嬉しく思っている。研究会活動以外にも、コンソーシアムには異業種の方々がたくさん集まっておられ、人脈形成、情報共有に有益なものになっているものと思う。建築研究所も、コラボレーション・ミーティングでは、建研のグループ長がリード役として、今までに、構造、防火、環境、材料、建築生産の各分野で研究会を行って来た。コンソーシアムのプラットフォームにふさわしいテーマの研究が行われていると思う。

また、先ほど由木局長が触れた建築基礎・地盤分野の状況について、私ども建築研究所もその課題について認識を共有しているところである。このコンソーシアムでも、研究推進のために産・学・官が連携するための土俵作りができれば、と考えている。

それによって、若手の活性化にも繋がるのではないかと期待している。

挨拶要旨

建築研究開発コンソーシアム
土田 和人 副会長代理



樋口副会長の代理で出席させて頂いた。

私は工場のものづくり、現場のものづくり、海外のものづくりを担当しており、東日本大震災および昨年の熊本地震で応急仮設住宅の建設の本部長として計3,020戸の応急仮設住宅を建設して感じたのは、村上会長も仰ったように、建築の技術はまだまだ完成していないということである。しかし私達は先代の知恵を継承し、様々な分野・異業種をまたいだ研究開発をもっとスピードを上げて推進し、皆さんが安全に、安心してお住まいできる住宅そして建物を建設することが、やはり我々の社会的使命ではないかと思っている。

これからもこのコンソーシアムの活動がますます推進されることをお願い申し上げます。

新運営委員長の挨拶と4つの委員会の紹介をします。

自己紹介と抱負

運営委員会 委員長
(国立研究開発法人 建築研究所 理事)
澤地孝男



本年4月より建築研究所の理事を務めさせていただきます。1990年に当時の建設省建築研究所に入所以来、国の研究機関において室内環境や省エネルギー性能に関する研究に従事して参りました。特に記憶に残っておりますのは、2003年7月のシックハウス対策のための建築基準法改正と、1992年以降幾度か改正されてきました省エネルギー基準に関与させていただいていることです。また、国際エネルギー機関の建築関係の共同研究プログラム(IEA/ Energy in Buildings and Communities)の執行委員会及び共同研究への参加、そして省エネルギー技術関係のISO技術委員会(TC163及びTC205)における規格提案作業に関わらせていただいております。国総研所属時には住宅研究部長及び建築研究部長を務めさせていただき、住宅及び都市施策関連の研究、構造・防火・材料・生産分野の研究の立ち上げや基準案提案などにも関わらせていただくことができました。そして、6月15日に開催された本年の総会において、西山功前理事から引き継ぎ、建築研究開発コンソーシアム(以下「本会」)の運営委員長を務めさせていただくこととなりました。

さて、本会の目的は規約によると、「建築及び住宅に係る技術に関する研究開発の実施主体となる企業、研究機関等が、各々の自主性と競争的な研究開発環境を尊重しつつ協調・連携体制を整備するとともに、人材、施設、資金等の研究開発資源を重点的かつ効率的な投入を図ることにより、建築・住宅分野における新たな価値の創造に貢献し、もって経済社会の持続的発展と国民生活の安定・向上に寄与すること」とされています。このことは、会員が別々に取り組んだほうがよい事であろうが、社会や国民のためにやらねばならない研究開発で、協調・連携してやったほうが効率の良いことを行うのが本会である、と理解できます。この目的のために活動するには、「新たな価値の創造」「経済社会の持続的発展」「国民生活

の安定・向上」に寄与する研究開発とは具体的には何なのか、「協調・連携体制を整備」することのほうが効率的である研究開発とは同じく具体的に何なのか、皆様と共に考えさせていただきたいと存じます。また、「協調・連携体制」といっても具体的にどのような体制をとることが適切なのか、についても同様です。また、本会における先輩諸氏、特に民間企業から参加されている方々に教えを請い、本会で可能なことと困難なことの判断力を醸成しつつ、なによりも1+1が2より大きくなるような貢献ができればと願っております。

建築・住宅分野において既に顕在化している課題としては、すぐに思い浮かぶだけでも、震災後の建物の機能維持、建築基礎・地盤分野の設計施工技術、中古住宅市場の活性化、中大規模木材利用建築物の建設技術と普及、人口減少時代における都市のあり方、ICTを活用した建設技術、2030年・50年に向けた省エネ目標の達成、既存建築・住宅の省エネ改修、既存建築・住宅の有効活用、などの具体的かつ実用的な答えが求められている課題を挙げることができます。いずれも過去に耳にしたことが全く無い課題ではありませんが、社会の変化や周辺技術の発展出現とともに、その多くは以前とは異なる様相を呈しています。

建設産業に課せられる課題に当たるのと並行して、建築・住宅の将来像を描き、「新たな価値の創造」を攻めの形で行うことも興味深いと言えます。「新しい価値」が誰にとってのものなのかによっても創造されるものは多様となるでしょう。大きい話もあろうし、ディテールに類するものであるかもしれない、様々な「新しい価値」があり得ます。ディテールに類するものが小さい話かと言えば、一概にそうとは言えず結果的に大きな創造につながるかもしれません。

というようなことをあれやこれや考えてみると、本会の活動から未来に向けた構想や実用的な技術開発の種子が発生するのではないかと、期待がふつふつと湧き上がってくるのを感じる次第です。

委員会の活動内容

当コンソーシアムは、理事会の下に運営委員会を置くほか、本会の目的達成に必要な事業を行うために、理事会の議決を経て、以下の委員会を設けています。

委員会構成図



※各委員会は、必要に応じて小委員会・部会を構成する

運営委員会

役割：運営委員会は、建築研究開発コンソーシアム規定に基づき、理事会から委譲を受けた事項について議決する他、コンソーシアムの運営上必要な事項を審議することを役割としています。

委員長	澤地 孝男 (国研)建築研究所	委員	湯浅 憲 高砂熱学工業(株)
副委員長	団栗 知男 大阪ガス(株)	委員	半田 雅俊 戸田建設(株)
委員	鈴木 康嗣 鹿島建設(株)	委員	今村 芳恵 (一財)日本建築センター
委員	玉田 真人 大和ハウス工業(株)	委員	河野 昭彦 (一財)日本建築総合試験所
委員	越海 興一 (国研)建築研究所	委員	村田 幸隆 (一財)ベターリビング
委員	槐本 敬子 積水ハウス(株)	委員	相川 隆 ミサワホーム(株)
委員	栗本 修 (株)大林組	委員	橋本 博文 三菱ケミカル(株)
委員	奈良 勉 (株)フジタ		

交流推進委員会

役割：交流推進委員会は、会員に有益な情報を、ホームページ、ニューズレター等の媒体や、講演会、見学会等の手段を用いて提供する事業及び会員間での情報共有や会員相互の情報交換の場を設けることを通じて、会員の交流を推進する事業等を実施することにより、会員が受けるメリットを向上させるための業務を展開し、コンソーシアムの活性化に資することを役割としています。

委員長 鈴木 康嗣	鹿島建設(株)	委員 藤原 達夫	鉄建建設(株)
副委員長 穂本 敬子	積水ハウス(株)	委員 大倉 真人	
委員 竹内 博幸	五洋建設(株)		(株)長谷工コーポレーション
委員 内海 一郎	積水化学工業(株)	委員 田村 俊樹	パナソニック(株)
委員 中野 一樹	ダイダン(株)	委員 山崎良一郎	吉野石膏(株)
委員 大野 定俊	(株)竹中工務店		

インキュベーション委員会

役割：インキュベーション委員会は、これからの研究開発の担い手となる若い人材の育成を会員が協働して支援するスキームや、異業種の研究者、技術者等が主体的に参画し自由に議論することを通じて新たなアイデアや技術開発の種を生み育てる場を提供する事業等を実施することにより、コンソーシアムの活性化に資することを役割としています。

委員長 玉田 真人	大和ハウス工業(株)	委員 鈴木 正美	新菱冷熱工業(株)
副委員長 栗本 修	(株)大林組	委員 梅田 泰成	住友林業(株)
委員 太原 豊	旭化成ホームズ(株)	委員 田端 淳	大成建設(株)
委員 岩本 吉隆	(株)安藤・間	委員 星島 昭治	パナホーム(株)
委員 室星 啓和	(一財)建材試験センター	委員 赤尾 伸一	三井住友建設(株)
委員 吉岡 清	佐藤工業(株)		

研究開発推進等委員会

役割：研究開発推進等委員会は、自主性や競争的な研究開発環境を尊重しつつ日頃交流する機会の少ない異業種の企業が共同して研究開発を推進する場や、会員の人的・経済的資源を有効に活用できるような研究開発のスキームを用意するとともにコンソーシアムの諸活動の成果や、会員が有する技術等を会員のみならず広く社会に還元するため、国

への働きかけや関係機関からの業務受託を推進することにより、コンソーシアムの活性化に資することを役割としています。

委員長 越海 興一	(国研)建築研究所	委員 高田 啓一	新日鐵住金(株)
副委員長 奈良 勉	(株)フジタ	委員 平田 茂良	大和ハウス工業(株)
委員 安井 健治	(株)奥村組	委員 野崎 利樹	東京ガス(株)
委員 藤井 睦	(株)鴻池組	委員 島 一喜	(独)都市再生機構
委員 山田 哲弥	清水建設(株)		

新会員・新事務局員の紹介

新 会 員

正 会 員

- ・株式会社ジェイアール東日本建築設計事務所
代表者：有山 伸司
所在地：東京都渋谷区代々木 2-1-5 JR 南新宿ビル
- ・株式会社桐井製作所
代表者：桐井 隆
所在地：東京都千代田区内幸町 1-1-1 帝国ホテルタワー 18F
- ・株式会社染野製作所
代表者：染野 省三
所在地：茨城県牛久市猪子町 648
- ・三洋工業株式会社
代表者：菊地 政義
所在地：東京都江東区亀戸六丁目 20 番 7 号
- ・日軽パネルシステム株式会社
代表者：昼間 弘康
所在地：東京都品川区東品川 2-2-20 天王洲郵船ビル 7 階
- ・株式会社オクジュ
代表者：熊本 辰視
所在地：大阪市北区西天満 5 丁目 3 番 7 号

新 任 事 務 局 員



倉片 恒治

4月より、積水化学工業株式会社住宅カンパニーの住環境研究所から事務局へ出向しております。未経験の分野の業務となりますが、会員の皆様の研究開発・人材交流にお役に立てるよう努めて参りますので、宜しくお願い致します。

・株式会社ツヅキ

代表者：高橋 浩二
所在地：大阪府東大阪市西石切町 5 丁目 1-42

準 会 員

- ・日本鋼製地下材工業会
代表者：谷本 隆広
所在地：東京都中央区八重洲 1-3-7
- ・株式会社イノフィス（東京理科大学発ベンチャー）
代表者：藤本 隆
所在地：東京都新宿区神楽坂 4-2-2
東京理科大学森戸記念館 3 階

学 術 会 員

- ・平沢 岳人氏 千葉大学 大学院
工学研究院 融合理工学府 教授
- ・田中 浩也氏 慶應義塾大学
環境情報学部 教授
- ・益山 詠夢氏 慶應義塾大学
政策・メディア研究科 特任講師
- ・興石 直幸氏 早稲田大学 理工学術院
創造理工学部建築学科／
創造理工学研究科建築学専攻 教授



岩田 善裕

4月より、国立研究開発法人建築研究所構造研究グループとの兼任で事務局に参りました岩田です。鋼構造建築物の耐震性能の評価を専門としています。幅広く皆様のお役に立てるよう努めて参りますので宜しくお願い申し上げます。

CBRD News Letter 31号

発行日：2017年7月31日
編 集：建築研究開発コンソーシアム 交流推進委員会
発 行：建築研究開発コンソーシアム 事務局

CBRD 建築研究開発コンソーシアム

〒104-6204 東京都中央区晴海 1-8-12 トリトンスクエア Z 棟 4 階
TEL: 03-6219-7127 FAX: 03-5560-8022
E-mail: conso@conso.jp (代表) Home Page: <http://www.conso.jp/>